

国際保健医療論

国際協力研究科で集中講義として隔年開講している科目です。保健医療論講座で提供している感染症対策論，疫学・公衆衛生学概論，Demography, Medical Anthropology, Environmental Healthといった基礎的な知識を学ぶ科目に加え，国際保健医療協力の現場において問題になることは何かを，直接的な保健活動や医療行為のみならず，その背後に必要な調整や社会経済的な基盤なども踏まえ，ディテールに踏み込んで学べるカリキュラムを考えました。そのため，7人の外部講師をお招きし，Zoomで遠隔講義していただきます。

初回（2021年2月9日2限）に概要説明と成績評価の方法などのオリエンテーションを行い，その後は2コマずつのオムニバス講義となります。

お問い合わせは中澤(minato-nakazawa@people.kobe-u.ac.jp)まで。



2月9日3，4限「熱帯感染症の創薬」
北瀬先生（長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科長）

2月11日3限「途上国の病院医療と生活習慣病」
2月11日4限「Double burden 途上国における疾病構造の転換と生活習慣病」
大前比呂恩先生（茨城保健生協 透析科長，獨協医科大学特任教授）



2月12日3限「持続可能な開発目標(SDGs)と未来社会デザイン」
2月12日4限「COVID-19パンデミックへの医療人類学アプローチ」
杉下智彦先生（東京女子医科大学国際環境・熱帯医学講座教授）

2月13日1限「人類生態学とエコヘルスアプローチ：概論」
2月13日2限「人類生態学とエコヘルスアプローチ：事例研究」
門司和彦先生（長崎大学多文化社会学部長）



2月18日3，4限「近代医学の転換」
山本太郎先生（長崎大学熱帯医学研究所環境医学部門国際保健分野教授）

2月19日4，5限「国際保健医療としてのマラリア対策」
狩野繁之先生（国立国際保健医療研究センター研究所
熱帯医学・マラリア研究部長）



2月26日3，4限「急性感染症に関する医療サービスの利用
——パプアニューギニアの事例研究」
塚原高広先生（東京女子医科大学・東京大学）